

第3回 横浜市新たな劇場整備検討委員会 基本計画検討部会	
日時	令和3年6月29日(火)15:00~17:00
開催場所	KGU 関内メディアセンター8階 M-803
出席者 (敬称略) (6名)	本杉 省三委員(劇場計画研究者(日本大学 名誉教授)) 明石 達生委員(東京都市大学 都市生活学部 教授) 倉田 直道委員(工学院大学 名誉教授) 坂口 大洋委員(仙台高等専門学校 総合工学科 教授) 立川 好治委員(有限会社ニケステージワークス 代表取締役) 山中 隆委員(滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール 館長)
欠席者 (敬称略) (1名)	水野谷 良子委員(株式会社ヴォートル 代表取締役)
開催形態	公開(傍聴7名/報道1社)
議題	(1)新たな劇場の施設概要の検討 (2)その他
資料	資料 : 令和3年度第3回横浜市新たな劇場整備検討委員会 基本計画検討部会資料

議事内容

- 1 新たな劇場の施設概要の検討
- 2 その他

【本杉部会長】

- ・まず、議題に入る前に、議事録の確認を行いたいと思います。第2回基本計画検討部会の議事録については、委員の皆様へ送付して頂いております。皆様にご承認頂きたいと思いますが、ご異議ございますか。

【委員】

(異議なし)

【本杉部会長】

- ・異議がないようですので、第2回基本計画検討部会の議事録については、これにて確定いたします。ご承認頂きました議事録は、今後、委員会のホームページにて公開させていただきます。
- ・それでは、議題に沿って進めていきたいと思います。市が検討している基本計画の内容について、引き続き委員の皆様から幅広い知見に基づいた指導・助言を頂きたいと思いますので、よろしくお願いいたします。
- ・ご発言頂く際は挙手のアイコンを押して頂くか、画面上で手を挙げて頂く、あるいは声を出して頂ければと思います。私が指名しましたら、マイクをオンにしてご発言頂きますようお願いいたします。なお、ご発言の後はマイクを必ずオフにして頂くよう、お願いします。
- ・それでは、資料に今回新たに加わった部分を中心に、事務局から説明をお願いします。なお、デジタルシフトに関する部分は分けて、後半に議論したいと思います。事務局は、まず前半の感染症対策までの説明をお願いします。

【事務局】

(資料の説明 43 ページまで)

【本杉部会長】

- ・ありがとうございました。
- ・施設、関連事業、感染症対策の検討、以上、大きく3つの項目についてご説明頂きました。これから皆様からご意見、ご質問を頂きますが、ウェブ会議は時間管理が難しいため、簡潔に発言して頂きますようお願いいたします。
- ・また、恐縮ですが、ご発言の趣旨を明らかにするために、資料のページ等を示して頂いて、方向性として良いのか、あるいは修正が必要なのか、その旨を発言頂いた後、ご意見などを頂きたいと思います。
- ・まず、「施設計画の検討」、「関連事業の検討」、「新たな視点での検討(1)」について、1ページから43ページまで、非常に幅広いですが、順不同で構いませんので、ご発言よろしくお願いいたします。

【立川委員】

- ・13 ページの「フライタワーと吊物機構について」のところでは、「移動型照明ブリッジ・給電システムを検討する」というところがありました。この移動型照明ブリッジというのは、照明機構の回路や、その他様々なものがインストールされた、大きな橋状のものになっていることが多いです。
- ・移動型照明ブリッジということは、フライタワーの中での固定の場所ではなくて、任意の場所に設置することができるという意味合いだと思います。照明ブリッジの移動は、かなり大規模な組替えになるので、日常的な運用にはあまり適さないのではないのではないのかというのが私の意見です。
- ・確かに、照明ブリッジが設置されていない場所に照明機材を吊りたいという要望は、非常に多いです。その時にどう対応するかというと、通常照明を吊らない吊物バトンに照明機材を積み込み、いずれかのところから、照明の電源回路を引くことになります。いくつか方法がありまして、ギャラリーや舞台床から引く、簀の子から下ろすということが考えられます。ブリッジ自体を移動するよりは、回路自体を自由に引いてこられる機構の方が、取り回しも簡単だし、設計、施工についても大幅に負担が軽くなると思います。
- ・セットや演出によって、様々な場所からプロジェクターや照明機材を吊って、舞台上ないし装置を照明で明るくしたいという要望は非常に多いですが、ブリッジを移動するよりは回路をどう取り回していくかという検討に力を注いだ方が良いと考えます。

【本杉部会長】

- ・日本国内でいくつか移動型のブリッジはあるものの、運用には手間が掛かり大変だということだと思います。ムービングライトの導入が今後進むことが考えられ、それについても考えると書いてあるので、併せて検討して頂きたいと思います。
- ・吊り荷の重量を検知できる荷重検知機能を有するバトンと書いてありますが、何キロと検知するものは、今のところ普及していません。今吊っているものが過荷重だという表示は出ますが、そこまでの機能はないので、これも確認した方が良いと思います。
- ・他にございますか。

【山中委員】

- ・2 ページですが、オーケストラピット使用時に 2,500 席規模ということで、貸館等を考えると沢山入って頂いた方が良いのは分かりますが、バレエを主体にするということで、見易さはある程度必要だと思います。見易さを考えると、2,500 席の確保が悪い方向に行ってしまう気もするので、その辺は気をつけて欲しいと思います。
- ・びわ湖ホールはオーケストラピットを使わないとき 1,848 席です。本当は互い違いの座席にしたかったのですが、そうすると席数が減るということで、席数を先に発表してしま

ったために実現しませんでした。2,500席をどうしても確保しなければならないと考え過ぎないように、設計のときをお願いしたいと思います。

【本杉部会長】

- ・それに関して9ページにオーケストラピットのことが書いてあり、「本劇場計画での対応」という欄に、「オーケストラの演奏が入ることを前提として…」と、利用していない時には前舞台方式や観客席方式を検討するとなっています。オーケストラピットを上げて前舞台とするという考え方はあると思いますが、ダンス等の場合は、舞台の床が見えなければなりません。つまり、オーケストラピットの手前まで見えなければならず、より客席の傾斜が必要となるため、設計上は厳しくなります。
- ・オーケストラピットを使っている場合でも、オペラやバレエで指揮者を見たいという要求は必ずありますので、オーケストラピットの手前までできるだけ見えるようにというのを設計者は心掛けてくれると思います。
- ・3ページに最大視距離が出ていて、アクトシティ浜松が47メートル、愛知県芸術劇場が47メートルと、2,500席位の規模となると、50メートル位になってきます。
- ・お客様をオーケストラピットに入れずに2,500席ですから、そうなってくると50メートル超になってきて、全部が同じような席になるというのは難しいです。建築は物理的な空間であり、最も前の人と後ろの人とでは50メートル違うので、同じような席にはなりません。
- ・一方で安いチケットを提供することは、これからの観客を育成していく上でとても重要な点だと思います。そう考えていくと、何席が適切なのか中々難しいですが、昨年度の検討部会では、顧客の満足度を高める客席として2,500席としています。それを念頭に置きながら、山中委員が仰ったように、設計段階から検討していくことが大事だと思います。前回の部会でもご意見頂いておりましたので、引き続きその意見は市に伝えていきたいと思いますが、この件に関しましてはそういう考え方でよろしいでしょうか。

【山中委員】

(了解)

【本杉部会長】

- ・その他にございますか。

【明石委員】

- ・2点ありまして、1つが質問です。今回、31ページの敷地に長さを入れて頂きました。面積が2ヘクタール以上あるので結構広いように思えますが、ぎりぎりかもしれないと思っています。とちのき通りとKアリーナの間の奥行きが、122メートルと書いてありま

す。また、23 ページに模式図があつて、ここに書いてあるものは基本的に同じ階、つまり主舞台と同じ平面の高さで入れる必要があるということでした。ここに書いていないのが、バス等の通路でKアリーナとの間に入るのだと思います。プロセニウムの大きさを大体 20 メートルと考えると、主舞台は 25 メートル角位になるでしょうか。

- ・奥舞台と主舞台があつて、その 2 つで 40 メートルから 50 メートル。オーケストラピットと観客席がありますが、観客席 2,500 席、これは平面で置く訳ではないですが、通路等もあるので、1 人 1 平米と考えると、50 メートル角です。そうすると、奥舞台の奥から観客席の奥まで 100 メートル位取ってしまうと思います。
- ・それに、後ろでなく横につけることもできると思いますが、荷捌きの搬入の施設があるし、絶対必要なのはKアリーナとの間の通路です。バスが追い越していくぐらいとすると、10 メートル位要るかもしれないです。
- ・更にホワイエあるいはエントランスをどこにつけるかによろと思います、観客席の前とか、とちのき通り側がある程度、顔にはなるので、そちら側がどうなるか。というように、足し込んでいくと、122 メートルは微妙だと思いますが、事務局からその辺の雰囲気を見せて頂けますでしょうか。

【本杉部会長】

- ・仮に今、客席が奥行き最大 50 メートル、主舞台の奥行きを仮に 25 メートルだとします。そして奥舞台を 25 メートル弱とすると、客席と舞台の奥行きだけで 100 メートル弱になります。そうするとホワイエや後ろ側の通路として、約 10 メートルずつ残ってくるという感じだと思います。
- ・従って、心配なざるスケール感ではありますが、できないスケールではないと思います。事務局で補足があればお願いします。

【事務局】

- ・大丈夫と言える段階には至ってはいませんが、劇場の向きは悩んでいるところです。具体的には、主舞台と観客席を南北方向にするのか、東西方向にするのか、122 メートルと 150 メートルとの戦いをやらなければなりません。
- ・バス通路の上面を建築物にすることは可能ですので、何らかの活用方法があるのかということ、あまりやりたくはないですが、楽屋を同じフロアに全部置くのかということなど、ぎりぎりの線をやりながら見極めたいと思います。
- ・そういう意味では、絶対に余裕がある、大丈夫ということではないですが、ぎりぎりどうやって収めるかを今やっている最中という状況です。

【明石委員】

- ・不可能ではないことが確かめられたので、あとは工夫ということかなと思います。

- ・もう一つ、エントランスホールの位置付けを、この委員会である程度言っておいた方が良いのかということです。つまりエントランスホールがただの出入口ということなのか、それとも市民交流施設としての機能を持たせるということを打ち出しておいた方が良いのか。財源構成等を含め、色々なことに関係すると思います。
- ・はっきり言っておいた方が良いのか、曖昧で良いのかが気になっています。市民交流施設を兼ねていることをある程度打ち出しておいた方が、色々な場面で通りが良いと思います。エントランスはエントランスですと言うと、それは全部劇場だから劇場だけでしょうとなりかねないと思いますが、いかがでしょうか。

【本杉部会長】

- ・それに関するページは24ページでしょうか。アトリウム、ホワイエ、エントランスホールをどう位置付けるかという話だと思います。エントランスホールやアトリウムは、明石委員が仰ったように、市民に開かれた無料の場所としてつくられるということは、この図を見ますと全部共通しているように思います。

【明石委員】

- ・そうすると、ある意味で今後コンペをするときの設計条件や、運営を考えていくときに、そういう場所ができるという条件をはっきりさせた方が良いと思います。

【本杉部会長】

- ・それは仰る通りだと思います。24ページのもう一つの課題は、ホワイエをどう位置付けるかという話です。無料ゾーンの中に入れて、ドアもぎりにするのか、そうではないのか。基本形は、従来型のもぎりがあるってホワイエに入るというもので、検討案1、2はドアのところでもぎるので、ホワイエも無料ゾーンだという考え方です。

【明石委員】

- ・どうしてこれを選ばなければならないことになったのでしょうか。

【本杉部会長】

- ・事務局から説明をお願いします。

【事務局】

- ・24ページは具体的に書いてありますが、まず1ページに論点としてどう考えるかというストーリーを入れてあります。今回これを出させて頂いた理由が、公演があるときのエントランスホールやアトリウムの位置付け、考え方と、公演がないときに閉ざされた空間になってしまうということです。従来は1か0かで、閉ざされて一切入れない、公演のときは

お客様を入れる場所という位置付けでしたが、みなとみらいでやるときは、従来の考え方を変えても良いのかなと考えています。公演があるときはお客様の空間になり、公演がないときは一般の方が入れる空間として考えるべきではないか。1か0というより、その間のような考え方ができないかということで、整理させて頂きました。

- また、もぎりという言葉になっていますが、数年先はチケットレスになり、従来のように切符を切るという概念ではなくなってくることを前提に、配置計画を考える時代になってきているかなと考えました。そのような形になってくると、ホワイエの位置付けは大部分意味合いも変わってくるのかなということで、資料を作成しています。

【本杉部会長】

- 仰る通り従来型の紙でもぎるという行為はなくなってくると思うのですが、やはり入場者をチェックする場所というのは必要で、それをどこに置くかという問題だと思います。チケットをチェックした後に、有料のお客様専用の空間があるのか、専用空間がなく、トイレに行った後に、あるいはビュッフェに行った後にその度毎にチケットをまたチェックして客席に入るといったようなことになっていくのかどうかだと思います。
- ある状況の下で、ホワイエを収入源として貸し出す、あるいは完全に無料空間として自由に使って頂く、そういう状況があって良いと思いますが、公演の内容、有料ゾーンとしての雰囲気を作っていくためには、何らかのコントロールされた場所が必要ではないかと思います。ホワイエをどう利用するか、使えるようにするかということは、考えて良いと思いますが、完全に常に無料ゾーンとしてしまうのは、まだ早いのではないかと思います。
- その他、この件に関してご意見があればお願いします。

【倉田委員】

- 今回の施設を考えたときに、劇場の本体、ホールの部分というのは、ある程度演じるものも明確ですし、ある程度伝統にのっとり部分であると思います。ホワイエ、エントランス、オープンスペース、あとこのアトリウムというのが、こういう書き方が本当に建築的に良いのかどうかは気になります。アトリウムというのはあくまでも空間のあり方であって、機能ではないと思うので、そういう意味で言うと、検討案の1と2というのはあまり違いがないと思います。
- 25 ページもアトリウムを大きく書いてありますが、特別な機能を持ったスペースのことをアトリウムと言っているのか、整理した方が良いと思います。
- 話を元に戻しますと、エントランスホール、ホワイエの作り方が、今回の施設が新しい時代において非常に特徴のあるものになる、一つの大きな要素だと思います。ホールは技術的なことも含めて、色々決まってしまうところがあると思いますが、ホワイエ、エントランスについては、オープンスペースも含めてあり方というのをしっかり議論し、位置付

- けることによって、この劇場が新しい時代のものになるということを強く感じています。
- ・特に公共施設と考えたときに、このつくり方というのは非常に大事で、先程のもぎりの話もあるとは思いますが、それは中をどのくらいフレキシブルにやることができるか、例えば公演をやるときには、可動のものを仮設的に持ってくることもできると思いますので、工夫はできると思います。
 - ・一方でホワイエ、エントランスの位置付けや使い方は、しっかり議論することが大事だと思います。それがこれからの新しい時代の劇場のあり方というものを、外に対してアピールしていく機会にもなると思います。
 - ・私自身の考え方を申し上げれば、基本的にはホワイエやエントランスは一体のスペースとして、ホールが利用されていないときには極力オープンにし、劇場というもの、そこで演じられるものを一つのテーマにして、色々な意味での交流の場とすることも大事ではないかと思います。
 - ・結果として、交流の場になることによって、バレエやオペラに対しても、より親しみを覚えることにもなると思いますので、つくり方や、どういったものを持ち込むかということは、大事な要素だと思います。そこが新しい時代の劇場という姿をアピールする場にもなる気がします。

【本杉部会長】

- ・すみません、機材がフリーズしてしまいました。

【倉田委員】

- ・簡単に言うと、ホワイエ、エントランス、オープンスペースのつくり方、位置付けが、この新しい劇場の評価というか、これからの時代の新しい劇場の姿をアピールすることになると思います。
- ・もぎりは公演をやるときに、仮設と言うと適当ではないかもしれませんが、空間を可動するもので上手く仕切ることも含め、やりようがあると思います。
- ・エントランスとホワイエの使い方が大事で、創造支援にも繋がっていく要素になり、開かれた劇場ということにもなると思います。
- ・オペラもバレエも、これまでは社会的にもエリートのための芸術というイメージが強かったです。中で演じられているものの質は高いという前提ですが、より身近なものにするためにも、ここのスペースの使い方が大事ではないかと感じています。

【山中委員】

- ・倉田委員のご発言を、そうだなと思って聞いていたのですが、現状は本杉部会長が仰ったように、完全に客席だけにし、客席を出たところでチェックをするとすると、かなり混乱すると普段劇場を見ていて思います。今後どう考えるかは別ですが。

- ・公演のないときに交流の場になるというのは、とても重要なことだと思うので、エントランスホールはそういう場所にすべきだと思いますが、ホワイエまでそれと全く同じ部分にするのは、現状では時期尚早というか、大変だと思います。

【坂口委員】

- ・他の委員も仰っていた内容に近いですが、目次に例えば創造支援エリア、交流促進エリアという項目が出てこない、2,500席の大きなホールをつくるということだけが見えてきてしまう。そこに筋がある、施設計画の中には3つの柱がある、というような目次構成にした方が良いというのが、まず1点です。
- ・先程議論になった24ページの施設計画のところ、将来的にチケットの配付方法がどうなるかということに加えて、今はホワイエに人が集まらないようにしようという考え方が一方ではあります。客席から直接外に出られるとか、そこから入れるということは、感染症対策的にもメリットがあるので、ホワイエやエントランスで試演会や普及活動もあると思いますが、プラスアルファでそういう観点があると思いました。
- ・次の25ページですが、創造支援エリアや交流促進エリアを、横浜の新たな劇場のプロジェクトの柱と考えたときに、創造支援エリアの諸室の考え方のコンセプトがあった方が良いと思います。例えばリハーサル室やスタジオがありますが、そこで試演会もやるとすると、例えば搬入エリアに近い方が良いという考え方もあるかもしれません。作品創造ということから考えると、ここで日常的に作品がブラッシュアップされて、場合によっては、学校まではいかないと思いますがスクーリングのようなことも事業的にはあり得る施設になる可能性もあります。そう考えると、単に部屋数がいくつかということから一歩踏み込んだコンセプトというか、エリアの感覚のようなものはあって良いと思います。
- ・26ページにユニバーサルデザインの項目があります。利用し易いのはもちろんですが、海外の色々な作品を呼んでこようという施設でもあるので、例えばロンドンオリンピック以降、文化プログラムはアンリミテッドと言われるように、表現者側にもダイバーシティーを確保しようということに恐らくなってきました。障害を持たれている方々の表現も多様になってきていますし、水準的に非常に素晴らしいものが出てきています。そういったものを事業内容に取り込んでいこうと考えると、利用者側からだけのバリアフリーではなくて、例えば楽屋からの考え方など、使う側からのユニバーサルデザインの考え方も、こうした海外に売っていく施設の中には、理念としてあっても良いと思いました。

【倉田委員】

- ・25ページは必ずしも面積を表しているものではないとは思いますが、アトリウムが大きく書かれています。これは特定の機能、使い方をイメージしてアトリウムと呼んでいるのでしょうか。通常、アトリウムと言うと吹き抜け空間、天井の高いスペースという感じです。そこ自体が特定の機能を持っているものではないと理解していますが、劇場で言うと、

そこだけは何か特別な場所、役割を持ったスペースという位置付けになるのでしょうか。

- 例えばホワイエやエントランスの中が吹き抜けているということでも、アトリウムと言えますし、垂直方向に人を見たり、見られたりという関係をつくることもできます。天井が高ければ、空間のボリュームの大きさを体感することもできます。そういう意味で、特に検討案1ではアトリウムが特別な位置付けにあるように見えるので、その辺りのご説明を頂けないでしょうか。

【事務局】

- 倉田委員のご指摘の通り、アトリウムというのは施設形態で、機能の問題ではございませんので、アトリウムという表現について反省をしているところです。事務局側の意図としては、アトリウムという形態をつくることを目的としている訳ではなく、多目的に市民の方々に開放するエリアとして書かせて頂いております。誤解を招くかもしれませんので、もう少し丁寧な表現にしたいと思います。
- 若干弁明させていただきますと、エントランスホールという概念は、お客様が入って、無料の区域であるという意味合いが強く、今回のアトリウムは、劇場を目的としていない方も入り得る場所であるという意味合いで考えています。いずれにしましても、アトリウムという表現については検討させて頂きたいと思います。

【明石委員】

- 今のお話に関連して、アトリウムというのは多くはガラス張りの吹き抜けの空間概念なのかもしれませんが、多目的の交流空間を屋内型で設け、外との関係でも透明性があって、ということかもしれません。この概念は大事だと思います。今すぐに良い言葉は思い付きませんが、しっかり整理しておいた方が良いと思います。
- また、屋外の空間というのが、今回は入れられないかもしれないですが、入っていないです。余ったところが屋外の空間になるというのは、みなとみらいの設計と考えると違うのではないかと常々思っています。とはいえ、まだそこまで達するような順序ではないと思いますが。
- 多目的の交流空間と仮にすると、管理運営検討部会にも影響しますので、しっかり整理して打ち出した方が良くと思いました。

【本杉部会長】

- 今まで関心がいくつかの点に集中していたため、薄くなってしまったところがあるように思います。例えば交通問題の発言が多く出た一方で、回遊性の問題や歩行者のアクセス、楽しさみたいなものは、敷地の外に関係してしまうので中々言いにくいところがあり薄らいでしまったような気がします。その辺は今後検討を更に進めて行って頂きたいと思います。

- ・その他、事業手法のことも、意見というよりも質疑応答形式になってしまうのかもしれませんが、ありますでしょうか。

【倉田委員】

- ・30 ページになると思いますが、交通課題について車寄せなども含めて整理されています。以前の部会でも申し上げたかもしれませんが、平面的であり時間軸が入っていないと思います。そういう意味では、車や歩行者の動線も、時間によって随分違ってくると思います。
- ・時間軸を入れて整理することも必要だということ、もう一つやはり気になっているのは、隣にアリーナが新しくできますよね。ここも大規模な集客施設だと思います。今は敷地の中だけで考えていますが、同時に両方の施設が使われているときに、エリア全体で、車も人の動線も含めて捌けるかどうか。アリーナの方が計画も含めて先行していると思いますが、色々な段階で調整が必要だと思います。それは大事なことだと思います。
- ・それからあともう一つ、車寄せの位置付けが気になっています。単に車でアクセスした人を降ろせば良いという場所なのか。エントランスに乗りつけることをイメージしているのであれば、エントランスと車寄せの関係も大事になってくるので、その辺も考える必要があると思います。
- ・単純に車がバッティングしないというだけではなくて、車でこの施設に来られた方々が、どのようにホールに対してアクセスするかということも含めて、動線は考えておいた方が良いと思います。

【本杉部会長】

- ・ここに書いてあるのは、この場所に車寄せを設けますということではなくて、車寄せや駐車場が必要だという一つのサインではないかと思います。まだ計画の段階ですので、具体的には設計の中で捉えていくのだと思いますが、何か市の方で考えがあれば、追加コメントをして頂ければと思います。

【事務局】

- ・交通問題に関しては、メインの正面の道路である、とちのき通りというのがございます。この道路を分断する訳にはいきません。そこから出入りするということは、全体のまちづくりとして良いことではないので、基本的には車寄せを含め、そこから車の出入りは避けようということの一つ考えています。
- ・外周道路から入ってくるという形で考えますと、ホテルのように正面にあるような形にすることが、自ずと難しい状況になります。交通の出入りについては、とちのき通りからという案を排除した途端にかなり限定されますので、計画を詰めていく段階で丁寧に検討したいと思います。

【本杉部会長】

- ・時間も迫ってきていますので、今のお話を含めて、A・Bブロックの全体、民間活力の活用、劇場整備という特殊性、更に交通基盤の整備などの公共性を踏まえて、整備の進め方をどうしていくのか。特に民間活力については民間事業者の意向、動向や市場性もありますので、それを確認していく必要があります。現段階の基本計画においては、考え方を検討して頂き、引き続き市の方で進めていって頂きたいと思います。
- ・では、一通り意見を頂いたと思いますので、デジタルシフトのことについて、事務局から説明をお願いします。

【事務局】

(資料の説明 44 ページから)

【本杉部会長】

- ・ありがとうございました。
- ・中々まだ具体化されていないこともあるので、イメージしにくい点があるのではないかとありますが、ご意見がありましたらよろしくをお願いします。

【山中委員】

- ・運営面でのデジタル技術の活用ということと、芸術・デジタルアーツが一括りになっている気がします。芸術は人がつくっていくものですので、51 ページで、「劇場のデジタル技術が劇場にもたらす芸術性という価値が最高峰である」と、文章もよく分かりませんが、こういうデジタル技術が最高峰の芸術性をもたらすという表現はおかしいと思いました。
- ・びわ湖ホールもオンライン配信に力を入れています。59 ページにもありますが、オンライン配信は、コロナや病気や色々なご都合で劇場に来られない方に対するサービスとして非常に重要だと思いますが、生で観て頂くのが最高です。デジタルのものを観て、劇場に足を運んでくださるといふ循環が理想なので、その辺ははっきりさせておく必要があると思いました。
- ・あまりにデジタルアーツというか、デジタルが芸術をということに、のめり込み過ぎているように思いました。

【立川委員】

- ・確かに未知の分野で具体的なイメージが湧きにくい部分がありますが、オンライン配信のような形でコンテンツを配信することと、例えば収益分配をどうするかということと、同時に考えていかなければならないと思います。
- ・オンラインコンテンツに参加しているアーティスト、スタッフなどの権利問題や収益問題

を抜きにして、今このような時代だから、少しでも何か発信したいという気持ちだけが先行していくような形では、本当の意味でのコンテンツのデジタル化、配信事業は、上手くいかない気がしています。

- それからも一つ、劇場のハードウェアの部分でのデジタル化ということですが、これまでも様々なものがデジタル化されてきていますが、中々、使用者にとって使い易いものにならない。例えばバトンのコントロールシステム、吊物機構をコントロールするソフトウェアなど、設計者側が想定したスペックと、演出上、要求される動作スペックが一致しないということがあります。
- デジタル化を検討するにあたって、劇場アプリの制作というのが書いてありますが、多様な仕様要求に応えられる柔軟なシステムとして考えなければなりません。今までは中々そういう形になってこず、デジタル化することによって却って不自由な使用方法を強いられるケースがままあります。この辺は十分、仕様設計段階でも考えていく必要があるのではないかと思います。

【本杉部会長】

- 舞台美術にデジタルの映像技術が入ってきたり、チケッティングや様々な技術の制御にコンピューターが入ってきています。そういう面は確実だと思いますが、新しい劇場を起点として何が生まれてくるのかというところがまだ分かりにくく、見えにくいのだと思います。

【明石委員】

- 劇場本体のDX化のことをご説明頂きましたが、創造支援エリアでの教育等との関係を含めてのデジタル化というようなことは、検討の範囲としているのでしょうか。

【事務局】

- デジタルをどう捉えていくのか、創造支援エリアや市民交流エリアも含め、全てのエリアを検討の対象として考えております。

【明石委員】

- 劇場本体も表から考えると難しいと思いましたが、市民との交流機能や創造支援のあり方にもよりますが、創造支援エリアの方が具体的に提案できると思います。
- 先程、坂口委員の発言を伺い、なるほどと思ったのですが、リハーサル室は本来の用途で使わないときは、市民の創造支援活動に使うこともあるのかなと。そうすると市民交流や市民開放も含まれてくるのかなと思って見たところ、25ページの図式の中で、リハーサル室がホールエリアと創造支援エリアの両方に書いてあったので、事務局も色々考えているのだと思っていました。

- ・今回までで劇場本体は結構詰められてきたと思います。それ以外の部分はこの後の回で補強する余地があるのかもしれないと思います。事務局の計画と違えば、それはそれでということですが。

【本杉部会長】

- ・今のご発言は、運営面でもっと検討することができるのではないかというお話でしょうか。

【明石委員】

- ・創造支援エリアなど、劇場本体をやっていないときの機能について、もう少しハードウェアの面からも言っても良い気がします。

【坂口委員】

- ・明石委員のご発言に関連して、例えば創造支援エリアのスタジオでオンライン配信を強化していこうとすると、配信を想定したスタジオ的な仕様も考えるなど、何かしらハードのスペックの中にも、横浜の新しい劇場がデジタルにシフトしたということも位置付けるものが出てくると思います。
- ・そこは両方で議論した方が良いということと、もう一つ、更新のシステムというか、確かにデジタルは開館してからも日進月歩なので、契約や発注方法なのかもしれませんが、常に新しいシステムに更新されていくような施設整備や発注の方法を考えていってはどうでしょうか。イニシャルは低く入って、ランニングをしっかりと掴む方が良いのか、そうではないのか。コアな部分とプラスアルファの部分を考えていくなど、長期でデジタルシフトができるような施設のあり方も、検討した方が良いのではないかというのが2点目です。
- ・3点目ですが、実演団体のヒアリングはありますが、アーティストとプロモーターの意見を分けて考えていった方が良いのではないのでしょうか。特に 2,500 席のキャパシティをマネジメントしていくプロモーターの会社がどういうことを考えているか。その意見を入れた形であり方を検討した方が良いと思いました。

【本杉部会長】

- ・デジタル技術の優れた点は、遠く離れたところを繋いだり、双方向性というのがあるので、その特徴を生かしていくときに、育成事業にとってはとても効果的な結果を生むのではないかと思います。ただ、それは本施設だけでやっても駄目で、関連するところと繋がっていくことが大事なので、周りに協力者や賛同者を集めていくことも必要だと思いました。
- ・そろそろ時間になってきましたので、私の方からまとめに入っていきたいと思います。

- ・明石委員からも話がありましたが、部会としての意見はある程度出されてきて、課題となっていた部分が見え、整理されてきていると思います。
- ・次回の部会では、一旦その議論をとりまとめていく方向で考えてはどうかと思います。議論が更になればやっていく必要があると思いますし、100%完結するというものではないと思いますが、これまでの議論を踏まえて、検討作業をとりまとめることを目指してはどうかと思います。市として進捗の面からどうでしょうか。

【事務局】

- ・ありがとうございます。おかげさまで毎回非常に貴重なご意見を頂き、幹になるところは詰めてこられたと思います。まだ課題に残っているところや表現方法の不足等はございますが、そういうレベルに今やっと辿り着きましたので、本杉部会長にご提案頂いた方向でまとめていけるように、事務局で頑張りたいと思います。

【本杉部会長】

- ・当初、7月頃にはという話をしていましたので、それを目指して、是非進めていけたらと思います。
- ・今回の部会では、今後検討を進めていく上で大変重要なお話を皆様から頂いたと思います。一つ一つの確認はしませんが、次回に向けて私から3点について確認したいと思います。
- ・1つは、劇場の各部分の計画内容についてです。これについてはかなり議論が深まってきました。特に、前段は整理できてきたのではないかと思います。ただ後段の部分、今日リハーサルの話も出ましたが、リハーサル室や楽屋など、まだ施設全体の中で押さえ切れていない部分もありますので、今日の議論を踏まえて修正点など網羅して、対応して頂きたいと思います。
- ・2点目は、関連事業等の検討です。事業手法については、Bブロックの整備の進め方、これは部会では方向性を検討するという点に留め、市において民間活力についての市場動向、意向を把握して、事業手法を検討していくものと考えています。
- ・3点目は、今日の最後にもありましたが、デジタルシフトの検討についてです。企業が持っている様々な技術、民間の研究者達が進めている技術、それを劇場の中でどうやって導入できるのか、どのように展開することができるのか。引き続き深く検討を進めていくのと同時に、そうした方々からの提案やご意見を生かすために、劇場として何が必要なのかということ、次回には把握して整理したいと思いますので、その材料を市の方で整えて頂きたいと思います。
- ・以上を私からの今日のとりまとめとしたいと思います。委員の皆様、いかがでしょうか。

【委員】

(異議なし)

【本杉部会長】

- ・ありがとうございます。
- ・その他全体を通じて、何かご意見、ご質問等がありますでしょうか。
- ・限られた時間でしたので、時間を気にしながら皆様ご発言して頂いていたと思うので、漏れた点等がありましたら、事務局にご連絡頂きたいと思います。
- ・では、進行を事務局に戻します。

【事務局】

- ・本日は長時間にわたりまして、皆様、誠にありがとうございました。
- ・次回の部会の日程につきましては、今後調整させて頂き、改めてご連絡させて頂きますので、よろしくお願いたします。
- ・それでは、以上をもちまして、第3回横浜市新たな劇場整備検討委員会基本計画検討部会を終了いたします。委員の皆様、ありがとうございました。